

適期収穫を実施しましょう【予測】

■積算温度で刈取り予測、水分・青籾で刈取り判断■

本年産も収穫期を迎え、ハナエチゼンでは収穫が始まっています。コシヒカリは9月上中旬、日本晴は9月下旬の収穫が予想されます。穂の状態をこまめに観察し、適期収穫に努めましょう。品種ごとの成熟期は積算温度でおおよそ推測できますが、登熟期間中の気温により変動しますので、籾水分や穂の黄化率で時期を補正し、刈り取り日を決定しましょう。



9月上旬の圃場

収穫時期の目安

品種名	田植日	出穂期	出穂後の目安日数	予想収穫開始日
コシヒカリ（平坦地）	5月22日	8月2日	37日間	9月8日頃
コシヒカリ（山間地）	5月15日	8月2日	41日間	9月12日頃
日本晴（平坦地）	5月9日	8月10日	45日間	9月24日頃
日本晴（山間地）	5月1日	8月7日	50日間	9月26日頃

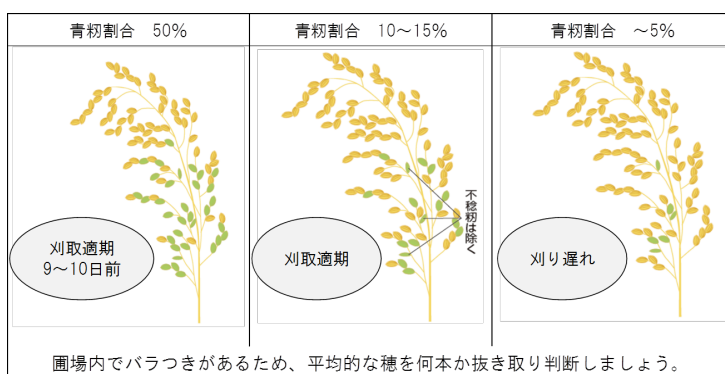
籾水分を測って刈り取り日を決めよう



刈り取り開始期の目安となる立毛中の籾水分は25%です。籾水分が30%以下になれば玄米水分計で計ることができ、籾水分は30%以上の場合1日あたり0.9%程度低下します。30%以下になり収穫が近づくと(出穂後24~27日頃以降)、1日あたり0.5~0.6%くらい減少します。刈り遅れると胴割粒が発生しやすくなりますので、収穫直前までの間断通水とあわせて適期刈取に努めましょう。

1穂あたりの青籾割合による補正

上記の水分による予想だけで判断せず、穂の様子をこまめに観察し刈り取り日予想の補正を行いましょ。穂元に緑色籾が10~15%残った状態が刈取適期です。籾が全部黄色になる頃には、穂の先の籾が刈り遅れの状態になっていることが多いため、穂元のほうに薄緑色した籾の割合が10%~15%(青籾割合が50%となってから約9~10日後)を下回ったら刈り取りを始め、5%程度になるまでに刈り終えるように心がけましょ。



次年度に向けた土づくり

～健全な稲の生育は土づくりから～

管内の土壌は

1. 土壌のケイ酸分の減少
2. 腐食含有量の欠乏
3. pHの低下



など、地力の低下により生育後半に稲体が活力を落とし、米の品質・食味低下に繋がっています。水稻はケイ酸植物と言われ多量のケイ酸を吸収します。土づくり資材の無料散布などを利用して土づくりを積極的に実施しケイ酸の補給を行いましょよう。

土づくり資材の無料散布

ケイカル（砂） 500kg／10a	資材代	13,530 円（税込）
	購入経費助成	▲3,000 円（税込）
	実質農家負担額	10,530 円（税込）

しきぶホワイト 100kg／10a	資材代	9,570 円（税込）
	購入経費助成	▲1,000 円（税込）
	実質農家負担額	8,570 円（税込）

※ 粒状しきぶホワイトは特裁認証①では使用できませんのでご注意ください

■ 2021年春の無償散布受託は行いませんので、忘れずにお申込みください

☆ケイフンは秋の稲ワラと同時にすき込みしましょう

地力の乏しい地域では、粒状しきぶホワイトの施用にプラスして、腐植を高めるケイフン散布を行いましょよう。

◎ ケイフン・・・10aあたりの施用量（目安）100 kg～150 kg（ライムソーワで散布）
（粉） 98 円／15 kg（予約引取税抜価格）
（ペレット：動力散布機で散布可能） 220 円／15 kg（予約引取税抜価格）

※ ケイフンについては無償散布を行っておりません。ご了承ください